

愛知県生涯学習推進センター情報誌



生涯学習情報いっぱい！「学びネットあいち」
<http://www.manabi.pref.aichi.jp/>



携帯電話からも情報検索できます。
<http://www.manabi.pref.aichi.jp/i/>

編集・発行/愛知県生涯学習推進センター（愛知県教育委員会生涯学習課）

〒460-0001 名古屋市中区三の丸三丁目2番1号（愛知県東大手庁舎2階） TEL 052-961-5333 FAX 052-961-0232

手筒はなび（そぶえ夏祭り）



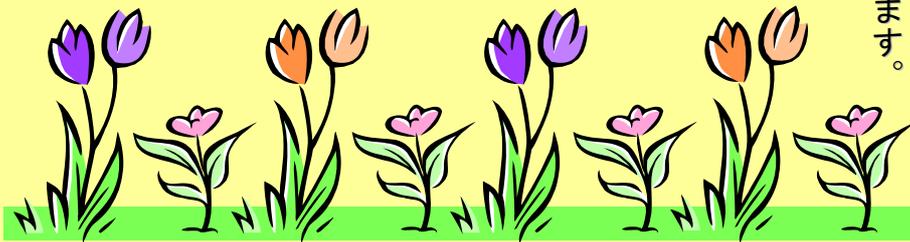
地域のおやじたちが、手筒はなびで祭りを盛り上げました。父ちゃんの普段とは違う迫力ある姿に、子どもたちもお母ちゃんたちもくぎ付け！

【稲沢市】

裏山をワンダーランドにしよう大作戦！

裏山で、秋に拾ったドングリを素材にして、いろんな料理に挑戦！お父さんの器用な一面に、子どもたちはびっくり！目をキラキラさせてお父さんを見つめていました。

【瀬戸市】



「子どもの教育の始まりは家庭から」とも言われるように、家庭教育は子どもが成長していくうえで、大変重要な役割を担っています。父親と子どもとのコミュニケーション不足が懸念される中で、子どもと積極的に向き合う「おやじ」たちがいます。今回は、そんな地域の「おやじ」たちの活動を紹介します。

家庭で 地域で 魅せる！
 おやじの底力



INDEX 【目次】

- 家庭で 地域で 魅せる！おやじの底力 …… 1
- 「学びネットあいち」体験レポート …… 3
- インタビュー「この人に聞く」 …… 13
- 生涯学習支援ボランティアセンターだより …… 15
- 「全国読書フェスティバル愛知大会」を開催しました！ …… 19
- 講座・講習会・イベント情報 …… 4
- ネットワーク機関紹介 …… 14
- 生涯学習推進センターだより …… 17

=特集=

家庭で 地域で 魅せる！おやじの底力！



家庭教育は、すべての教育の出発点です。乳幼児期からの親子の愛情による絆で結ばれた家族とのふれあいを通じて、子どもが基本的な生活習慣、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやり、社会的なマナーなどを身につけていくうえで家庭は重要な役割を担っています。

しかし、父親が家庭教育に参加することが少なく、母親に家庭教育の責任が委ねられがちです。乳幼児を持つ若い母親の中には社会との接点を持たずに孤

独な育児を行っているケースも少なくありません。

父親が子どもの教育にかかわることは、子どもの成長にとって好ましい影響を及ぼすものです。父親とのコミュニケーションがよくとれている子どもほど、「弱い者いじめは許さない」「電車の中でお年寄りがいたら席を譲る」「小さい子の面倒をみるのが好き」などと考えている割合が高く、子どもが社会性を身につけていく上で、父親とのコミュニケーションが非常に重要であることが明らかになっています。

おやじの会とは？

「おやじの会」は、各地域のPTA活動などを契機として発足した父親たちによる集まりです。県内におやじの会が誕生して10年になろうとしています。年々活動の輪が広がり、現在（平成19年1月末現在）では38市町村で132のおやじの会があり、学校支援活動や学校行事、地域活動への参加などの活動をしています。

<参加している“おやじ”の声>

- ・おやじの会の活動が各地で活発に行われるようになり、地域の子どもは地域で育てるといった意識が高まれば、今社会が抱える様々な課題も解決されていくと感じます。【50歳代 男性】
- ・家庭教育の大切さを再認識しました。私もおやじですが、意識を変えて、家庭にそして地域にと関係を広げていきたいと思っています。親子のふれあい、地域の関わりにより、未来ある子どもたちが健やかに育ってくれることを願います。【40歳代 男性】



△野外料理で、お父さんパワーを発揮！子どもたち、お母さんは大喜び。そして、なによりお父さんが一番喜んでいました。（「おやじの会ディキャンプ」豊明市家庭教育推進協議会）



「父親を考えるフォーラム -地域おやじサミット-」を開催しました!

愛知県教育委員会では、家庭教育を支援する事業の一つとして、「父親の家庭教育参加促進事業」を実施しています。1月28日(日)に開催した「父親を考えるフォーラム - 地域おやじサミット -」では、各地で活躍する「おやじの会」などの活動発表、「松平わ太鼓」によるアトラクション、三遊亭好楽師匠による記念講演などを行い、多くの方に来場していただきました。参加した皆さんから、「家庭だけでなく、地域における父親の役割についても考えるきっかけとなった」という感想をいただきました。



△ロビーでの各団体の活動紹介と情報交換

＜活動事例①＞ 吉良町父親の家庭教育参加実行委員会

吉良町父親の家庭教育参加実行委員会は、「父と子 団らん 地域 団らん」をテーマに、「父と子 ビーチで生き生き体験」「学校で泊まろう! 2006」「父と子 音楽の集い」など、父と子が力を合わせて挑戦したり、一流の音楽にふれ合ったり、スポーツでぶつかり合ったりしながら親子の絆を深めています。子どもたちは、各種イベントを通じて、改めて父親のたくましさを感じたようです。



父子でカヌーに挑戦! お父さんの力強い漕ぎっぷりに感動! (父と子 ビーチで生き生き体験)

＜活動事例②＞ 一宮市立尾西第一中学校おやじの会

尾西第一中学校おやじの会は平成14年度に設立され、本年度で5年目になります。現在は34人の会員で活動をしています。「ふれ合い部活動」「ふれ合い地域清掃ボランティア活動」「学校祭(文化祭)に参加」などの事業を通して、おやじと子どもたちが共にふれ合い、語り合い、認め合いながら、父親の学校支援や地域での子育て支援に取り組んでいます。



中学校の部活動に参加! 必死の形相でボールを追う“おやじ”たちの真剣な姿に、子どもたちはびっくり!(ふれ合い部活動)

おやじの会の活動について興味をもった方は、お住まいの市町村教育委員会か、愛知県教育委員会生涯学習課へお問い合わせください。

【愛知県教育委員会生涯学習課】電話: 052-954-6780 (ダイヤルイン)

Eメール: syogaigakushu@pref.aichi.lg.jp





を利用して・・・

私らしく、始めよう！生涯学習



愛知県生涯学習情報システム「学びネットあいち」では、自分の学習目的に合わせて、講座などの情報を検索できる他、特に学習目的が決まっていなくても、自分の予定にあわせて講座情報を検索できる“イベントカレンダー”も充実しています。この“イベントカレンダー”を使って学びの世界に飛び込んでみました！



【五感で自然を感じよう！～想像力でモノづくり～】

冷たい風が吹き抜ける1月下旬、イベントカレンダーで「ヒーリングクラフト」を発見しました。ヒーリングクラフトとは、竹や枝などの自然素材で作った簡単なオブジェだそうです。大変興味深く、早速参加してきました。

愛知県幡豆郡に位置する愛知こどもの国は、愛知県政100年を記念してつくられた児童総合遊園施設です。100万㎡という広大な自然の中で、体を使って一日中遊ぶことができます。

製作場所のにじの広場は、周りを木立と竹林に囲まれ、心地よい葉擦れの音や鳥の鳴き声が聞こえてきます。子どもや大人たちが、どんぐりなどの木の实を見つけては、「これも使いたいね！」「どんな風にしようか？」と相談する声も弾んでいました。そんな、「こういう風にしたい」という思いを、指導員さんのアドバイスのもとに形にしていきます。



△どんな形にしようかな・・・？

久々に使うのこぎりや小刀、不揃いな形の小枝に苦戦しますが、それが自然素材の良さなのかも知れません。少しず

つ出来上がっていく“世界でただ1つ”の作品に、みんな真剣なまなざしを注いでいました。作業中、素材から伝わってくる温かさに触れ、自然との距離も少し縮まったような気がして、不思議と心もポカポカと温かくなってきました。

終了後、職員の方にお話を伺いました。「製作中も、作った笛の音色にひよどりやつぐみが寄ってきたりします。そんな自然の音・匂い・感触を五感で感じながら、作りあげる達成感や想像力を広げる楽しみを見つけて欲しいです」

＜わくわく工房（ゆうひ棟内）＞

年間を通して、木の葉やどんぐりなど、自然の素材を使った行事を開催しています。自由な発想で自分だけのオリジナルの物を創ることができます（右写真は「わくわく工房」外観）。



ちょっとした興味から参加したイベントでしたが、自然に包まれて心も深呼吸でき、モノづくりの楽しさを体感することができました。あなたも、自分の中の想像力を形にしてみませんか？

愛知こどもの国からのお知らせ

『チャレンジハイキング』に参加しませんか？



5月13日（日）20日（日）、愛知こどもの国内のハイキングコースに設置したポストにあるクイズを解きながら歩く楽しいゲームが開催されます！

受付は当日の午前11時～午後3時、あさひ案内所前にて行います。参加費は無料です。

詳細は <http://www3.ocn.ne.jp/~a-kodomo/>

この人に聞く！

できることを“おすそわけ”
—この気持ちから始まる絆づくり



生涯学習に関する様々な活動をしてみえる方にお話を伺い、その方の信念や活動の源に迫ります。今回は、押花を通して人の輪を広げたい！とパワフルに活躍する、清水美千代さんにお話を伺いました。

- 押花との出会いについて教えてください。
- 清水さん（以下敬称略） 13年前に、偶然立ち寄った本屋で押花の本を手にした時、「学びたい！」と直感で感じました。すぐに講座を受講し、その年の末に作品の展示会を開き、翌年1月には押花教室を開きました。当時は、教室と平行しつつ、体験講座の講師としても引っぱりだこの状態でしたね。
- 今思えば、母を亡くした悲しみから立ち直れずにいた頃でしたので、そんな私を見かねて、母が押花に出会わせてくれたのでしょう。
- 押花に没頭することで、お母さんを亡くされた悲しみが癒やされたのですね。
- 清水 花は人の心をやさしく温めてくれます。私もそうでした。押花をやっていると、雑草や道端で咲く小さな花にも目がいき、朗らかな気持ちになる。そんな花の力で少しずつ人の輪を広げ、絆を深めることができればと思い、押花教室「ぽこ あ ぽこ」を始めました。
- そんなご自身の実体験が、その後のボランティア活動に大きく影響したのですか。
- 清水 そうですね。11年前に起きた阪神・淡路大震災の時、自分を癒してくれた花で被災者の方を励まそうと、メッセージ付きの押花カードを送りました。すると、被災者の方からお礼の手紙がきたのです。本当にうれしかった。改めて、花の力を実感した経験でした。
- この経験を地元でも生かしたいと思い、福祉施設などで押花を教える活動を始めました。花に向かうときは、みんな本当に楽しそう。4つ葉のクローバーを用意して、楽しみに待っていてくれる方もいるんですよ。そんな姿を見ると、私の方が勇気づけられますね。押花を通してなら、自分でも社会に貢献できるんだという自信につながっています。
- その自信が、NPO法人の設立につながったのですね。

清水 私は他のことはできないけれど、押花でなら社会に貢献できる。同じように、地域には、自分の得意分野を社会にちょっと“おすそわけ”できる人がたくさんいるかもしれない。そんな人たちの輪を広げ、共にまちづくりをしたい！という思いで立ち上げました。

- 夢がどんどん広がっていきますね！
- 清水 活動をしていると、行き詰まることも結構あるんですよ。そういう時にこそ、押花は新しい出会いを与えてくれる。その繰り返しで、応援してくれる人が周りにたくさんできました。そのことが私のパワーの源なのです。
- 前向きに一生懸命取り組む姿が、周りの人にも伝わっているのでしょうか。
- 清水 私自身、今を一生懸命生きることを大切にしています。この積み重ねが、いろいろな道を開いてくれる。可能性は無限大に広がっているのだから、何歳になっても向上心や希望は持ち続けていたいと思っています。
- 学習を地域活動にまで高めた清水さん。最後にメッセージをお願いします。

清水 特技や趣味など、自分ができることを社会にちょっと“おすそわけ”する気持ちを、誰もが持ってほしい。必ず自分にも何らかの形で返ってくるのですから。その繰り返しで社会はつながっていくのです。自分の居場所や役割を実感でき、結果として、やりがいや生きがいにつながっていくと思いますよ。

【清水美千代さん（押花作家・NPO法人心豊かにARDの会代表・創作押花愛好家グループ「ぽこ あ ぽこ」主宰）

ARDの会では、様々な人の経験や趣味を生かした社会活動の一環として、子どもの健全育成や長寿社会での生きがい向上に関する活動を目指しています。今後注目です！

★ お問合せは ★ 0561-53-7373

地域に開かれ、活用される EPO 中部でありつづけること～環境省中部環境パートナーシップオフィス～

★地域が動くパートナーシップをつくる★

2003年7月に成立した「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」を踏まえ、地域での環境パートナーシップづくりの支援拠点として、地方に環境パートナーシップオフィス（地方EPO）が設置されています。中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）は2005年3月に開設、9月に本格的オープン。特定非営利活動法人ボランティア・ネットワークが請負団体となり、公募した中部7県のNPO団体を含む運営協議会とともに事業の展開を図っています。



環境省がもつ「施設」「資金」といった資源と、地域NPOが持つ「問題解決型ネットワーク」「斬新な行動力」といった資源がうまくかみ合わさる、そして地域の多様なステークホルダーが資源を持ち寄りながら、地域に必要なパートナーシップ事業を展開しています。

★大切にしていること～地域と乖離しないために～★

EPO中部のミッションは、「環境パートナーシップが持続可能な地域をつくる」です。地域と乖離しないために、地域のセクターが何を課題とし、何を求めているかを把握するための、行政、企業、NPO、市民とのコミュニケーションは必需です。これまでに、タウンミーティング、企業の環境報告書を読む会、多様な講座などを行い、パートナーシップを進めるうえでの阻害要因を把握してきました。地域に求められているのは、多様なセクターを交えた定期的円卓会議・パートナーシップ事例を知る窓口・企業とのマッチング事業・行政とNPOと一緒にブレインストーミングする場・行政施策について意見交換する場…。EPO中部には、そういった場をコーディネートする機能が求められています。



今年度から、企業・行政・NPOが顔を合わせ、具体的なアクションを提案する場作りをすすめています。地域の声を聞きながら、持続可能な地域をつくるための新たな提案を生み出す機能を高めたい。私たちが大事にしているミッションは、「地域に開かれ、活用されるEPO中部」です。

【環境省中部環境パートナーシップオフィス】

〒460-0001 名古屋市中区三の丸3-2-1 愛知県東大手庁舎4階
052-973-1033 / FAX 052-973-1032 / E-mail office@epo-chubu.jp
詳細はこちらをご覧ください <http://www.epo-chubu.jp>

「ネットワーク機関」とは生涯学習情報を「学びネットあいち」に提供して下さる生涯学習関連機関・団体で、随時募集しています。
詳しくは愛知県生涯学習推進センター（電話052-961-5333）にお問合せいただくか、ホームページ(<http://www.manabi.pref.aichi.jp/>)をご覧ください。

生涯学習 “ボラセン” だより



生涯学習支援ボランティアセンターでは、ボランティアバンクに登録していただいている方と関連するグループ・団体等を訪問し、実際に活動する様子や直接触れた生の声をみなさんに紹介していきます！

誰もが楽しめる、ダンスの世界へようこそ！



生涯学習ボランティアコーディネーター養成講座修了生の榎本宣子さん。にしおボランティア市民活動センターで地域の活動を見守っています。また、看護専門学校や短大で保健体育の非常勤講師をしていることから障害者スポーツに関心を持ち、車いすダンスのインストラクターとして、健常者や障害者を問わず、『人』としてダンスをする楽しさを伝えています。

車いすダンスは、約60年前、海外で車いす同士が踊る方式で発足し、その後現在の車いすに乗っている方と健常者がコンビを組んで踊る方式となりました。日本では、15年程前に研究会が発足し、今では「NPO 法人日本車いすダンススポーツ連盟」が中心となり、競技会の開催やインストラクターの認定等を行い普及に努めています。

榎本さんはこのインストラクターの資格を取得。「西尾車いすダンスボランティア部」を引っ張っています。もともとは、発表会への参加や自分たちの技術の向上を目的に発足したそうですが、活動を進めるうちに、自分たちが楽しむためだけでなく、障害のあるメンバーが『ボランティアをされる側からする側へ』活躍の場を広げるよう支援できないかとも考えるようになったそうです。

そこで今回は、彼らが身体障害者療護施設の入居者に車いすダンスの講習をする様子取材してきました。

当日は、西尾市総合福祉センターからダンス専用の車いす5台を施設に運ぶところから始まりました。専用の車いすは普通のものに比べて小回りが利き、踊りやすいのだそうです。施設に着くと、まず榎本さん、学生、主婦、そして車いすのともちゃん等、メンバーだけでウォーミングアップを開始。その後、入居者に声をかけると、職員も含めて人が集まって来て、総勢20名強でダンスの



△一生懸命練習！いつかはみんなで晴れ舞台に…

始まりです。車いすの人とそうでない人がペアを組み、メンバーが手本を見せます。ともちゃんが相手と手をつなぎ、車いすでくると一回転。それを見て、あちこちで人が回ります。ダンスの種目は、社交ダンスと同様、ワルツ、ルンバ等から、フォークダンスや民謡等まであるそうですが、ここでは種目に関係なく、好きな音楽に合わせて踊ります。メンバーも入居者も表情がいきいきしているのが印象的で、みなさんに話を聞くと、やればやる程熱中し表情も豊かになっていくとのことでした。

実は、私もワルツの音楽にのせて車いすダンスを体験させてもらったのですが、すごく軽やかで良い気分でした。みんなの表情が輝いていた理由が分かるようでした。いろいろな人が、ダンスを通して互いに協力し合いながら、生きがいを見つけてもらえたらと感じました。

連絡先：代表 榎本宣子（0563-54-0882）又は
にしおボランティア市民活動センター（0563-57-0469）

失敗は成功のもと。楽しく活動！



「豊川市子連一宮中学校区ボランティア育成会」で、若きボランティアリーダーの育成に携わる白井志保さん。いつも穏やかな眼差しで、彼らの活動を支えます。白井さんは、愛知県地域活動推進スタッフ養成講座などを受講され、今年度は、県教育委員会主催事業にも協力していただきました。今回は、周りの人を自然と笑顔にってしまう、そんな彼女の活動に迫ります。

1月下旬、寒空が広がる豊川沿いのいこいの広場で、子どもたちのにぎやかな歓声に包まれる白井さんの姿を見つけました。

このボランティア育成会は、年少リーダー（小学5・6年生）、ジュニアリーダー（中高生）、シニアリーダー（18歳～30歳）、育成ボランティア会（成人育成者）から成り、子ども会活動の運営・支援、福祉ボランティアなどを行っています。ジュニアリーダーが中心になって活動の企画運営をしており、白井さんの属するシニアリーダーは、彼らを陰から支えています。

この日は、子ども会の活動の支援として、凧揚げ、はねつき、こま回しなどの正月遊びを行いました。参加した子どもたちは思い思いの絵を描いた手作りの凧を持ち寄り、いざ揚げてみると・・・、バランスが悪くて揚がりません。そこでジュニアリーダーが、糸の長さを調節して手直しすると・・・、空高く凧が舞い揚がりました。「揚がったあ！」満面の笑みを浮かべた子どもたちが嬉しそうに声をあげます。一緒に歓声をあげるジュニアリーダーの後ろで、嬉しそうにほほえむ白井さんの姿が印象的でした。



△凧揚げの様子



△はねつきで失敗！

「失敗してこそ成功できる」－白井さんは、経験から学んだこの言葉を、活動を通してジュニアリーダーに伝えたいそうです。「失敗を恐れずに、自分で考えて行動してほしい。そのためには、私たちがどのように彼らを支援したらいいかを考えながら活動しています。」

「楽しむ」という気持ちが彼女の原動力。「大人が楽しんで活動すると、それが子どもに自然に伝わるんですね。世代を超えて共有できる感情が、常に私たちの活動の根底にあるからこそ続けられると思います。」－こう語る白井さんの笑顔がとても輝いていました。

子どもから大人まで一緒に活動することで、お互いが助け合い、そして学び合い、地域活性化に向けて日々前進しています。

つばやき ～ボラセン担当より～



ギリシャのことわざに「一番早く年をとるものはなにか？それは感謝の心である。」というのがある。物事になれてしまうと感謝の心を忘れてしまいがちになることを戒めた言葉であろう。ボランティア活動の中で生涯学習の講師や活動の助言者をしたり、奉仕活動をしていると相手からの感謝をどこかで期待しがちである。ボランティア本来のあり方は教えたり、ともに学んで自分の居場所や生きがいを見つけていくことに喜びがある。ボランティア活動も生涯学習の一環として教え、学ぶ機会である。感謝の心を持ちながらボランティア活動を進めていくことを忘れないようにしたいものだ。

地域子ども教室推進事業 (文部科学省委託事業)

～平成16年度から平成18年度までの緊急3ヶ年計画で実施～

<背景>

- ・ 社会の構造や環境の変化に伴う住民の地域社会への帰属意識の希薄化などにより、近隣住民間の交流等の不足、青少年の問題行動の深刻化
- ・ 青少年を巻き込んだ犯罪の多発などを背景とした、子どもたちの安全・安心できる遊び場の不足（青少年の異年齢・異世代間交流の不足、青少年の奉仕・体験活動の不足）



地域子ども教室の実施

指導員やボランティアとして、地域の大人たちの参加協力のもと、

- 学校の校庭や教室等を子どもたちの安全で安心な活動拠点（居場所）として開放
- 放課後や週末など、子どもたちがスポーツや文化活動等の様々な活動を実施

この取組は、平成16年度には5,364か所、平成17年度には7,954か所、そして最終年度となる平成18年度は8,318か所を実施されるなど全国的な広がりを見せています。県内においても平成18年度には370か所で行われました。



平成18年度地域子ども教室 活動紹介



愛知県地域教育力・体験活動推進協議会委託「地域子ども教室推進事業」を実施している団体を紹介します。



生き生き土曜学級実行委員会

【大口町】

土曜日に小学校で開催し、休日の過ごし方の在り方に目を向ける一助となりました。また、指導者や支援者に教員志望の大学院生や学生を多く配置し、彼らの学ぶ機会にもなっています。今後も子どもたちの生涯学習の基礎づくりにつながる活動にしていきます。

蒲郡子どもの居場所連絡協議会

【蒲郡市】

市内11公民館のうち7館で実施しています。コーディネーターと公民館主事が協力して活動を軌道に乗せるという一面もありました。公民館を利用することで、公民館活動に関心を持ったり、ボランティアの申し出があったりと人々の交流が深まっています。



地域子ども教室 参加者交流会を開催しました！

平成19年1月26日（金）に、県生涯学習推進センターで「第2回地域子ども教室 推進事業参加者交流会」を開催し、県内で活動する20団体が事例発表を行いました。



・・・活動報告・・・

今回の交流会では、各団体でブースに分かれて活動の様子などを発表しました。ポスターや写真の掲示、プロジェクターやビデオなどを使ってグループごとに活動報告を行いました。参加者は興味のある事例発表を聞きにまわり、発表者と活発な意見交換をしました。



・・・全体交流会・・・

活動報告を聞いて質問したいところや聞き逃したところへ行き自由に意見交換や情報交換をしました。他団体の活動報告を聞いて、今後の活動の参考にしたり、自分たちの活動に自信を持ったりと、今回の交流会を通して活動を振り返る良い機会となりました。



子ども交流・体験活動推進事業 『であい・ふれあい・わかちあい合宿』



異年齢・異世代交流を通して、人間力の育成をめざした子ども

も交流・体験活動推進事業「であい・ふれあい・わかちあい夏冬合宿」（8・12月開催）。地域で活躍する青年たちの企画・運営のもと、130名あまりの参加者（小・中・高校生や65歳以上の県民の方）は、自然や人とふれあうことの大切さを経験しました。

<合宿に参加した子どもたち、又はその保護者からの声>

☆“ファイヤーのつどい”で渡された親からの手紙を読んで、こんなに自分のことを見てくれたんだと分かりうれしかった。企画をしたスタッフの方に感謝したいです。【高3参加者】



☆家庭では経験できない伝承遊びをしながら、面識のない異なる年齢の人と過ごせたことで、相手を思いやることの大切さに気付いたようです。【小5保護者】

☆腹痛の子の体をお姉さんがさすってあげたりして、とてもいい雰囲気でした。最高齢の私も、若者からたくさんのエネルギーをもらいました。【74歳参加者】

また企画・運営した青年スタッフからは「企画から立案、そして運営まで、事業を作っていくプロセスを学んだ。地域で実践してレベルアップにつなげたい」という感想をいただきました。合宿に関わった多くの人々が、“出会いの素晴らしさ”を感じた合宿でした。



△もちつきを体験！（冬合宿）

夏合宿の様子は「まなびあい」14号で紹介しています。

<http://www.manabi.pref.aichi.jp/center/manabee/index.html>





「全国読書フェスティバル愛知大会」 を開催しました！



平成19年1月13日(土)に、ウィルあいち(名古屋市中区)で、「読書ではぐくもう！豊かなこころ」をテーマとして、「全国読書フェスティバル愛知大会」を開催しました。

大会議室では、半田市立岩滑小学校の児童による詩の朗読と歌から始まるオープニングセレモニーに続いて、学校や図書館などの実践事例発表、絵本作家のきむらゆういちさんとメルヘンハウス代表の三輪哲さんによる対談を行いました。学校や図書館、読み聞かせボランティアなどの関係者を中心に多くの方が集まり、熱心に耳を傾けていました。



△半田市立岩滑小学校による詩の朗読と歌でオープン！

ウィルホールで行われた劇団「青い鳥」の「アラビアンナイト」や中川ひろたかさんの絵本コンサートでは、親も子も一緒になって拍手をしたり歌ったりするなど、とても盛り上がりました。「子どものこころを豊かにする読書」をテーマにしたパネルディスカッションでは、芸能人の麻木久仁子さんや原田大二郎さんの自分の経験をもとにした発言に、来場者から賛同の声があがっていました。

その他、会議室では、新美南吉関係の展示や実演、人形劇、折り紙づくり、ブックトーク、絵本作り講座、絵本・児童書の展示など盛りだくさんの催しを行い、親子で楽しむ姿があちらこちらで見られました。

当日は、5,000人以上の方が来場し、どの会場も親子連れを中心に多めに賑わい、活気に満ちあふれた大会となりました。子どもの読書活動に対する県民の関心の高さを強く感じました。



△きむらさんと三輪さんの対談に興味シンシン！



△中川さんの絵本コンサートでノリノリ！



△パネルディスカッションでは子どもの読書をめぐってケンケンガクガク！

生涯学習情報誌「まなびあいち」は、生涯学習に取り組むみなさんと、愛知県生涯学習推進センターを結ぶ広報誌です。「こんなことを取り上げて欲しい！」「こんな情報がほしい！」「活動を取材してほしい！」、どんなことでも結構です。ご意見等下記までお寄せください。

〒460-0001 名古屋市中区三の丸三丁目2番1号 愛知県生涯学習推進センター
ファクシミリ：052-961-0232 mail：info@manabi.pref.aichi.lg.jp



生涯学習のマスコット
“マナビ”